

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki

vol.39 2002.12.20

茨木市国際親善城市協会



实用日本語学習会の支援者から、マンツーマンで日本語を熱心に学ぶ在住外国人の皆さん
＝市役所南館8階国際交流サロンで〔本文は8ページ〕

目次

- ミネアポリス市への英語学習ツアー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ミネアポリス市訪問団来茨、英語スピーチ大会・・・・・・・・・・ 3
- コンコーディア語学村日本語研修生受入、姉妹都市活動室・・・・ 4
- 日本語村「森の池」だより、青少年活動室・・・・・・・・・・・・ 5
- 内海町への市民訪問団、内海中学校サッカー部と交流試合・・・・ 6
- 市民とJICA研修員とのふれあい交流、会員募集、市が内海町宿泊施設利用者に補助・・・・ 7
- 实用日本語学習会、寄附・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

実践的な英会話を学習

ミネアポリス市への英語学習ツアー

7月12日から22日まで「英語学習ツアー」一行13人と茨木市・ミネアポリス市姉妹都市委員会の岡田委員長が姉妹都市・ミネアポリス市を訪れました。

ミネアポリス市到着の翌日はホームステイを体験し、ホストファミリーと“茨木・ミネアポリス・デー”に参加しました。

平日は、ミネソタ大学ミネソタ英語センターの教官から実践的な英会話を学ぶなど、思い出に残る貴重な経験になりました。

英語力がアップしたと錯覚!?

田中 真吾

今年7月、市長表敬訪問、親善公式行事などのほか、大学寮に宿泊しての英語研修が魅力的で、英語学習ツアーの一員としてミネアポリスを訪れました。

毎日午前中はミネソタ大学でESL（第2言語としての英語）の教授をなさっているPatriciaの授業、午後は移民家族の援助施設訪問のようなアクティビティが用意されており、一日中英語の使える環境を満喫しました。また、ある一日は、ミネアポリス市が観光用のトロリーカーを市職員のガイドつきで提供してくれました。モール・オブ・アメリカへはインタビューをし、レポートをまとめ発表する宿題持参でした。突然の質問にも皆さん嫌がらずに親切に答えていただけました。Patriciaは勿論のこと協会の方々も英語はクリアで分かりやすく、全員出発前に比べて、何倍も英語ができるようになったと錯覚して帰ってまいりました。機会があれば何回でも参加したい気持ちです。皆さんどうも有り難うございました。



授業の後の楽しいひととき（後列左端）

異文化に触れられた日々

綿野 衣里子

今回私は、英語学習ツアーに参加して、ミネアポリスへ行きました。ミネアポリスには、大・小様々な湖が沢山あり、すごく自然に恵まれている国だと感じました。ウサギやリスがそこらじゅうを走り回っているのを見た時は、思わず靴からカメラを出してしまいました。

私を感じた日本との違いは、自然がとても多く、夏は夜10時ごろまで明るく、多くの人々が湖の周りをウォーキングやランニング、サイクリングをしてとても活動的でした。

英語学習は、午前中は大学の教室で先生とツアーのメンバーで、ミネアポリスと私たちの町について話し合ったり、昼からの行動に役立つことを教えてもらい、楽しく過ごすことができました。午後からは、街に出て、バスの乗り方や買い物の仕方を教えてもらいました。また、ライブック市長に会ったり、ホストファミリーと行動を共にすることができ、とても楽しい日々でした。

このツアーに参加して、異国の文化や生活に直接触れることができ、とても良かったです。また機会があれば参加したいです。



“茨木・ミネアポリス・デー”に浴衣を着て参加（後列左から4人目）



川端康成文学館を見学



椿の本陣で興味深く話を聞く訪問団

姉妹都市・ミネアポリス市から訪問団来茨

去る11月19日、姉妹都市ミネアポリス市から姉妹都市協会役員など9人の訪問団が本市を訪問しました。既に、訪問の経験のある方がほとんどで、ある団員はちょうど19年前の同じ時期に茨木を新婚旅行で訪れていました。

本市滞在は正味2日間で、公共施設の見学などが主でしたが、本協会のミネアポリス委員会と将来的な交流計画を話し合う機会が設けられ、新しい交流プログラム(少林寺拳法や将棋)が提案され、ミ市姉妹都市協会のマイケル・レインビル会長からは、来年夏、ミ市の世界中の姉妹都市から訪問団を招き、『ミネアポリス・モザイク』と銘打ったフェスティバルを開催するので、茨木からも芸術家グループに来てもらい、是非公演をお願いしたいとの要望がありました。

今後の交流にとっては、意義深い訪問団となりました。



市長・議長表敬訪問



茨木市・ミネアポリス市姉妹都市委員会との懇談会

素晴らしいスピーチに感動!

11月3日(祝)、「第19回英語スピーチ大会」を開催しました。中学生14人は『葉っぱのフレddie』の題名でベストセラーになった絵本の英語版“The Fall of Freddie the Leaf”の一部を暗唱し、高校生6人は日本の英語教育や将来の夢など、幅広いテーマについてしっかりと自分の意見を披露しました。

聴きにいられた方々からも、「緊張しつつも努力している様子が見られてよかった」、「発音もきれいで、感情のこもったスピーチが素晴らしかった」との感想が寄せられました。



中学生の部1位の棕野さん

高校生の部1位の石田さん



出場者全員で記念撮影

《中学生の部》

- 第1位 棕野 葵さん 茨木市立養精中学校3年生
- 第2位 井上 芙巳さん 大阪薫英女学院中学校3年生
- 第3位 藤田紗由美さん 茨木市立東雲中学校3年生

《高校生の部》

- 第1位 石田紗和子さん 大阪府立高槻南高等学校3年生
- 第2位 大藪 高未さん 同志社女子高等学校3年生
- 第3位 田中 垂依さん 大阪府立千里高等学校2年生

ミネソタ州

コンコーディア語学村 日本語研修生のホームステイ

6/25~7/6

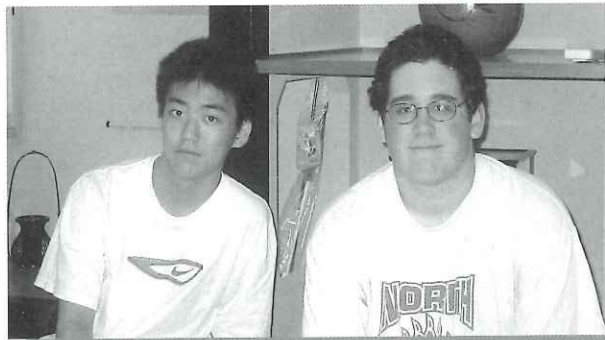
我が家の国際交流は友達感覚

ホストファミリー 阪上 美千子

今回我が家にステイしたベンジャミン君は、長男と同じ17歳。身長176センチの息子もビックリするような立派な体格の少しシャイな青年だった。長女も19歳という事もあり、同年代の話題と以前過ごしたミネアポリスの近況などの話で打ち解けるのにそう時間はかからなかった。初めての日本でのホームステイであり、1泊2日という短い受け入れの中で、リラックスして、少しなりとも日本の文化を感じてもらえたらと考えた。学校でも日本語を選択し、コンピューターが得意な彼は息子と日本語のゲームや音楽を通して互いに交流を深めた。

2日目はあいにく雨だったが、大阪城へと。修道館で剣道の試合を覗いたり、大阪名物“たこ焼き”を試食したりと、楽しいひと時を過ごした。短い時間ではあったが、息子のお友達感覚でお世話させて頂けたのも、ベンジャミン君の人柄故だと思う。

今でも時折インターネットで交信を行うなど、我が家の国際交流は継続中だ。



リラックスした様子のベンジャミン

海の向こうと続く交流

ホストファミリー 中山 純子

「一泊なら…」と、初めて受け入れを申し出ました。でも、多感な高校生、大丈夫だろうか？期待と不安が交錯する中、お人形のような可愛いジェシカがやってきました。彼女は終始、日本の高校生に見られるように、はにかんだり、自己表現に戸惑うような、そんな印象でした。

もっと自然に接し合うには2日間は、短かすぎました。どう感じてもらえただろうか？ずっとそんな思いを抱えたまま、彼女は帰国、そして、のあくる日、早速のメールをもらいました。とても楽しんで喜んでくれた様子。ほっとしたと同時に、彼女との交流はあの2日間だけでなかったのだと感じました。これからも、こうやってメールや手紙を通して分かり合い、海の向こうの文化を理解し合い、人間関係を深めていくのだと感じました。

そんな機会を与えてくださった協会関係の方々、本当にありがとうございました。これからも世界平和にもつながる一人ひとりの交流を大事にしていこうと思います。



ジェシカと一緒にパチリ

Ibaraki Intercultural Network (IIN) 姉妹都市活動室

姉妹都市活動室は、月2回の例会で英語力の維持、向上を目指し、英語圏等の出身の講師を招いて英語による講演や討議等を行っています。

- (例会) 木曜会：第1木曜日 午前10時～正午
土曜会：第3土曜日 午後2時～4時
(会費) 正会員 2,000円
準会員 1,000円 (高校生以下)



阪大の留学生の皆さんとアウティング

毎年、ミネソタ州のコンコーディア語学村では各国の言葉や文化が学べるキャンプが開かれており、全米から夏休み中の子どもたちが集まってきました。

今年の夏は、茨木から板野雅美さんが日本語村「森の池」のキャンプカウンセラーとして参加されました。

緊張と発見の6週間

キャンプカウンセラー 板野 雅美

初めてのアメリカでの体験は、想像以上のものでした。

森の池という日本語村へ行く前に、他の言語の村で働くカウンセラーと一緒に、オリエンテーションを兼ねて、キャンプ生活を体験しました。そこでは、子供の立場を考えるとということで、言葉を学んだり、食事やゲームなどをしました。そして、どう教えるか、何を考えさせるか、全体の目標

日本語村「森の池」だより



お箸を使って“いただきます”（右から2番目）

についての話し合いなどもありました。

それが終わり、森の池へ向かいました。私は主にことばを教えました。堅苦しく難しいものではなく、遊びや歌などを通じて、日本語に親しんでもらうつもりでやりました。

森の池にやってくる子供たちを受け入れる時は、常に緊張しましたが、毎日一緒に生活していると、色々な発見があり、面白く楽しい日々を送ることができました。相手は子供なので、言うことを聞く子もいれば、やりたい放題の子もいたり、どこにいても子供は同じなんだと感じました。

生活を通じて日本の文化を知ってもらう事は良い方法だと思いました。特に食事の際、もちろん日本食が出され、子供が悪戦苦闘していたのを覚えています。

こうしてあっという間に6週間が過ぎ、人に何かを教えることの楽しさの他、書ききれないほど、たくさん学ぶことができました。



「森の池」にある鳥居の前で（前列左端）

We Are Friends!

青少年活動室

英語でクッキングや買物、イースターなど外国文化について英語を使ってゲームやクイズを楽しむ“*We Are Friends!*”は、原則第3日曜日にクリエイティブセンターで行っています。小学校4年生から中学生まで、無料で参加できますので、講師の久徳ウェンディさんと英語に親しみましょう。



手作りのコスチュームを着て（ハロウィンパーティー）



小豆島名産のそうめん作りを体験

内海町への市民訪問団

「オリーブの木」を植樹

肌寒い晩秋の11月26日、午前8時30分、茨木市を出発。車中では、参加者全員の紹介と内海町での日程説明等で和やかな雰囲気になった。訪問団一行20人中、初めての訪問者が9名と分かり少し驚いた。道路渋滞はそんなにひどくなく、順調に姫路港に到着。予定の便までかなりの時間的余裕があったので、1つ早い便に変更。フェリー内は超満員。座る場所もなく、立ちながらの昼食を早々に済ませる。「この時期は毎年のことだ」とフェリー関係者の話に納得。

福田港には内海町の職員が出迎え。最初寒霞溪の紅葉を見学するが、少し遅すぎた感があった。それでも訪問団からは、「きれい、よかった」との声があがった。その後、オリーブ記念館において、内海町長、議長を表敬訪問し、若林団長から訪問の挨拶。和やかな雰囲気での懇談の後、訪問団全員は、近くの茨木市所有地にオリーブの木を訪問記念として植樹。強風の中、無事に終了。一気に写真撮影会になった。宿泊は地中海風のロッジ、オリベックスうちのみ。「昼の方がよかった」と訪問団の皆さん。なんとか、全員熟睡。

翌27日は、佃煮工場、二十四の瞳映画村の見学、また、そうめん工場の見学と“箸分け”の実地体験。緊張の中での楽しい思い出作りとなった。姉妹都市・内海町の皆さんの温かいもてなしと“青い海・波”が忘れられない訪問であった。

(事務局随行記)



内海町訪問記念にオリーブの木を植樹

内海中学校 サッカー部と交流試合

去る7月13日(土)に、内海中学校のサッカー部(大人5名、生徒20名)が来茨し、市立北中学校、西中学校と交流試合を行いました。

内海中学校は、始めは移動の疲れと緊張からか、押され気味でしたが、時間が経つごとに動きがどんどん良くなってきました。結果は、北中・西中の勝利でしたが、その敗戦のくやしさをバネに「もっとうまくなりたい!」という気迫がひしひしと感じ取れました。

試合での真剣勝負とはうって変わり、試合後のうちとけあった姿から、交流が根付いてきているように感じられました。



白熱した交流試合

市民とJICA研修員との

ふれあい交流

言葉の壁を乗り越えて

通訳ボランティア(IIN) 菅 照男

9月28日に行われた今回の最初の訪問先は文化財資料館(東奈良三丁目)で誠に値打ちのある所。銅鐸(青銅の古代人が神事に用いたすずやかな音の出る楽器)一つをとって見ても日本最古のもので、発見された当初、日本全国の考古学者が茨木に大集合した大物国宝級なのです。現代に到る各時代の逸品揃いで胸迫るものがあります。

昼食は、市役所高層階にあるレストランで各テーブルを囲み楽しく会話がはずみました。(お国自慢の歌まで出ました)

午後の訪問先は、消防本部(東中条町)で消防・救急活動の全容を知ることができました。現場と

の中継・やりとりも見学し、実感溢れ感謝の思いでいっぱいです。42メートルの高さまで伸びたクレーン放水車の実演で、タワーてっぺんに搭乗したJICA研修員と共々ぞくぞくスリルの一瞬でした。

最後に、西豊川町の大阪国際センターに戻り、恒例の立食懇親会となり、各国のお国自慢の歌あり、踊りあり、着物・丸まげ姿の艶やかな日本舞踊ありと、とても楽しく“ネバー・エンディング・ストーリー”となりました。お国柄の隔てなく、同じ人間として心を開いて言葉の壁もなんのその、いっばいの交流ができたものと皆満足の様子でした。

次回、来年の春頃に行われる「JICA研修員とのふれあい交流」には、市民の皆さんには是非参加していただきたく、私も期待するものです。



ドキドキのはしご車搭乗体験



ケニアのリズムに乗って



● 会 員 募 集 ●

本協会では、姉妹・友好都市をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、年2回発行する協会報や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉 個人会員(一般) 2,000円
(学生) 1,000円

〈申込先〉 協会事務局(市役所南館8階 市民生活部
市民活動推進課内)

TEL 620-1604

市が内海町宿泊施設利用者に補助

姉妹都市内海町との交流促進を図るため、内海町の宿泊施設を利用する市民の皆さんに対し、宿泊費用の一部を市が補助する制度があるのをご存知ですか？

補助額(1泊)は、中学生以上3,000円、小学生1,500円で、1人につき年間2泊分まで補助されます。

詳しくは、市民生活部市民活動推進課(TEL 620-1604)へお問い合わせください。

Let's learn Japanese together !!

実用日本語学習会



1999年から始まった実用日本語学習会では、日本語を母語としない方を対象に、マンツーマンでレベルに合わせた日本語学習の支援を行っており、今まで延べ約240人が受講されました。

また、日本語学習支援者も同様に募集しています。

みんなで一緒に日本語を勉強しましょう！

と き：＜木曜クラス＞ 午後1時30分～3時

＜金曜クラス＞ 午前10時～11時30分

と ころ：市役所南館 8階国際交流サロン

費 用：1,500円（テキスト代は実費）

問い合わせ先：新山宅 TEL 634-3291

“カフェ”みたいでとっても快適

西村 リタ（香港）



「実用日本語学習会」に通って、もう1年半になる。駅から教室まで15分位の道のりを、1人で歩いていくのは、ちょっと寂しい気分だ。

勉強は1対1の形で、支援者たちは全てプロフェッショナルではないが、私たちそれぞれの希望に合わせて、親切に指導してくださるのだ。

学習者はアジアをはじめ、南米とヨーロッパなどから来た人々だ。いろんな国の人に会えて楽しい。だが、仕事とか育児とかのために、勉強が終わったら、皆すぐ急いで帰ってしまう。談笑するチャンスが少ないのが残念だ。

そこで、時々、他人の勉強に割り込んで、一口はさみ邪魔するのだ。

教室は、教室というより大きな展望ホールのように、眺めがとていい。空間が広くて、座席もどこかのカフェみたいで、快適だ。もし、どこかホールの一角に、コーヒーコーナーでもあれば、勉強の気分も成果も、倍増するだろう。

4年たって生活が豊かに

中村 ジョイ（フィリピン）



私が茨木市に住み始めて、4年がたちます。その4年の間に、たくさんことができました。嬉しいことや困ったこともありました。

初めて日本に来た時は、ほんとうにたいへんでした。日本語はしゃべれませんし、フィリピンの家族からは遠く離れているし、お友達もいないし、日本の冬は厳しいし。その中でも一番の問題は、日本語でした。

そこで、大阪市にある外国人のための日本語学校で、勉強を始めることにしました。毎日クラスがあって、宿題がたくさんありました。忙しくて、とてもしんどくて、その上とても高かったです。もうしゅっくりと自分のペースで勉強したかった。

ある日、茨木に住んでいたフィリピンのお友達から、「実用日本語学習会」のことを教えてもらいました。ここでは、自分のレベルとペースで勉強することができます。

4年たって、日本語をしゃべれるようになりました（まあまあですけど）。お友達もたくさんできました。私にとって茨木市での生活が豊かになりました。でも冬は…。

寄 附

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄附をいただきました。ご厚志に心からお礼申し上げます。（5月～11月、敬称略）

＜市 へ＞ 6月 国際ゴルフ株式会社（90万円）

＜協会へ＞ 11月 茨木ライオンズクラブ（20万円）

編集・発行

茨木市国際親善都市協会

〒567-8505

茨木市駅前三丁目8番13号

茨木市市民生活部市民活動推進課内

TEL 072-620-1604 FAX 072-622-7202